

歴史と文化

明治屋京橋ビル (中央区指定文化財)

京橋2-2-8

明治屋京橋ビルは、昭和8(1933)年3月に株式会社明治屋の事務所と店舗を兼ねた本社社屋として建設されました。曾禰中條建築事務所が設計した鉄骨鉄筋コンクリート造(地上8階・地下2階)のオフィスビルで、イタリア・ルネサンス様式による外観デザインとなっています。昭和初期の高度な建築技術を反映させた貴重な近代建築であるとともに、地下鉄駅と一体化して建設された現存最古のビルとして、歴史的にも文化的にも価値の高い建物です。



京橋大根河岸青物市場跡

京橋3-4先

京橋川の北岸には、京橋の北西側に大根河岸(北東側に竹河岸)と呼ばれる河岸地がありました。江戸時代以来、近郊野菜を立ち売りする青物市が立ったこの河岸地には、荷揚げした大根が数多く積み上げられたといわれます。関東大震災後、京橋の青物市場は築地市場内へ移転しました。

江戸歌舞伎発祥の地

京橋3-4先

寛永元年(1624)に中橋の南地(現在の京橋一丁目付近)で猿若座(後の中村座)が檣をあげて歌舞伎興行を始めました(芝居小屋は寛永9年に移転)。江戸における歌舞伎は、猿若座の初代中村勘三郎による芝居が発祥といわれています。跡地近くの京橋のたもとには記念碑があります。

文化財 記念碑

ヤン・ヨーステン記念碑

八重洲通り



ヤン・ヨーステンは、慶長5年(1600)に豊後国(現在の大分県)へ来航したオランダ船の航海士でした。その後、徳川家康の信任を得て外交顧問・通訳・貿易の任に当たり、和田倉門外に屋敷を与えられました。平戸のオランダ商館設立(1609年)以来の日蘭修好を記念した石碑です。

京橋の親柱 (中央区民文化財)

銀座1-2先・銀座1-11先・京橋3-5先

京橋川に架けられていた京橋の欄干両端部にあった親柱です。中央通り沿いの歩道には京橋の石造親柱が3基残されています。このうち、擬宝珠が付いた木造橋のような雰囲気親柱2基(「京橋」[きやうはし]の陰刻がある)は、明治8年(1875)に石造アーチ橋として架橋された時のものです。また、照明設備を備えた近代的なデザインの親柱1基は、大正11年(1922)にアール・デコ調の洋式橋梁として架橋された時のものです。



煉瓦銀座の碑

銀座1-11先



文明開化の象徴であった銀座煉瓦街の歴史を記念する碑です。明治初期の銀座地区には、明治5年(1872)の大火を契機に不燃性の煉瓦家屋(煉瓦造2階建ての洋風建築)が建設されました。石碑床面に敷き詰めた煉瓦(発掘された明治期の煉瓦)は、フランス積みで再現されています。